No 21
31 October 2008
日本・パプアニューギニア協会会報
ごくらくちょう
Bird of Paradise
発　行　NPO法人 日本・パプアニューギニア協会
発行日　平成20年10月31日
編　集　NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部　〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F（ニューギニア航空日本支社内） TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556

パプアニューギニア2008年33回独立記念レセプション

PNG親善大使　小野　真弓

2008年9月16日、パレスホテル（大手町）2階チェリールムにて、「PNG2008年33回独立記念レセプション」が盛大に執り行われました。

レセプションの数週間前にご案内をいただき、瞬時に頭に浮かんだ言葉は「嬉しいっ！ また、PNG関係の方々とお会いできる！」というものでした。私がPNGにお世話になり始めた2006年以来、PNGに関わる時は、いつも楽しい思いをさせていただいたからです。

レセプション当日は、会場入り口でマイケル・マウエ大使夫妻ならびに山下勝男当協会会長が笑顔と優しいお言葉でお客様全員をお迎えになられました。

その後、マウエ大使の開会のご挨拶によりレセプションはスタート。つづいて、谷口誠当協会前会長、山下現会長のご挨拶のあと、堀江正夫日本・PNG友好協会前会長の乾杯で歓談に入りました。

歓談中はとても多くの方々と有意義に、そして楽しくお話しさせていただきました。新しい情報、知識を得ましたので、またPNGに行きたーいと強く思うようになりました。

山下会長

谷口前会長

堀江 日本・PNG友好協会前会長

大盛況のパーティー会場

そして、PNGマグロ解体ショー、オイスカの学生さん（PNGの方々）によるPNGと南太平洋の音楽と踊りが披露され、雰囲気は最高に盛り上がりました。

最後に、先ほど乾杯の音頭をとってくださった堀江前会長のご立派なお言葉で閉会となりました。

楽しい時間はあっという間に過ぎるものです。とても2時間とは思えない、ほんとうにあっという間の楽しいひとときでした。このような素晴らしい場にお招きいただき、ほんとうにありがとうございました。微力ではございますが、PNG親善大使として、これからも頑張ってまいりますので、みなさま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学生による音楽ショー

マウエ大使ご夫妻と私

日本ーパプアニューギニア経済交流を語る

松山　清(当協会法人会員)

パプアニューギニアのみならず、日本でも人気のあるマイケル・ソマレ首相。彼の国会議員在任40年記念行事が、去る4月5日ポートモレスビーで催されました。筆者も招待され、参加して来ましたので、模様をお伝えするとともに、たいへん良い機会ですので、日本ーPNG間で進められている最新経済活動について記します。

4月5日は、連日降り続いていた大雨が開会午後7時直前に止み、小規模ではありましたが、打ち上げ花火が夜空に広がって式典を盛り上げました。豪州、米国、中国、台湾、マレーシアをはじめ内外の要人、ソマレ首相の地元の方々、40年間に出会ったゆかりの人々、総勢600人近い方々が招待されました。

お祝いのシンギングダンスにはじまり、会場に据付けられた特大のスクリーンパネルに、ソマレ首相の若き学生時代、議員初当選、大臣就任、首相就任など、たくさんの写真が拡大され、時系列的に写し出された後、ソマレ首相の謝辞で式典は終りました。

その後、会場に用意された80近い丸テーブルで、各参会者は美味しい各種ワインを飲み、そして盛り沢山の料理を食べながら、在任40年記念をお祝いしました。

筆者は色々考えた末、ソマレ首相には、首相が好む青を基調とした、また、夫人にはピンクを基調としたハッピを特別に注文して作製し、お祝いの品としてお渡ししました。左胸にはPNGの国旗を、右胸には大きく40YRS, 両胸にHappyとCongratulationの立て字、そして、背側には大きくParliament Member Since 1968の文字と真白き富士山の模様を入れたハッピです。首相夫妻はたいへん喜んでくださり、出席者の見ている前で着用し、晩餐中ずっと着てお祝いのご挨拶等を受けていらっしゃいました。

晩餐の後、ダンスパーティーにうつり、筆者はソマレ首相退席の真夜中の0時まで会場におりましたが、40年お祝い会は翌日午前2時まで続いていたとのことでした。

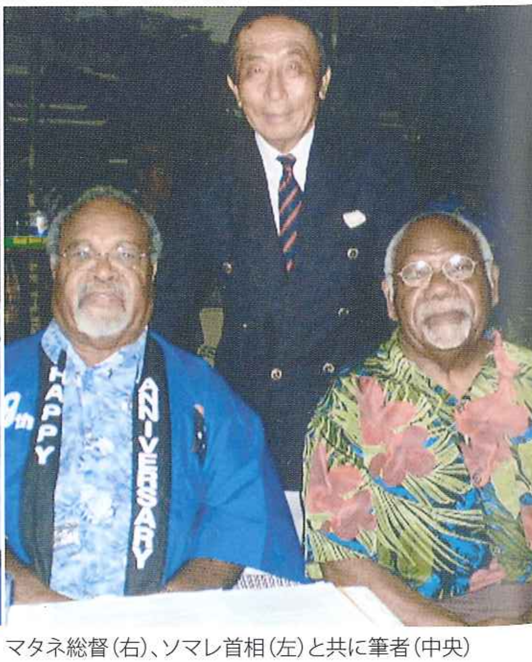
日本ーPNG経済交流は、一昨年以来PNGが国を挙げて取り組んできた、液化天然ガス(LNG)開発が、やっとこの5月22日に、PNG政府とEXXON MOBIL陣営間で、年間生産量630万トンを見込むGas Project Agreementが締結され、その商業化に拍車がかかりました。それによって、日本ーPNG間の経済交流もかつてない規模とテンポで拡大されることが確実視されています。

プレゼントしたハッピを着て、ご満悦なソマレ首相

PNGに天然ガスがあることは、諸調査で確認されていましたが、その事業化は、やや遅々としていました。ところが、ここにきて世界的な資源(エネルギー資源)のニーズが高まり、この度のGas Agreementの締結となった次第です。総事業規模は、日本円で1兆円強で、日本の資金、技術を提供し、事業の推進が行われていくものと推測されます。

本件に関連して、日本側からは、昨年10月に国際協力銀行＝JBIC(前日本輸出入銀行)を筆頭にした大手企業等20数名のMemberからなるMissionがPNGを訪問し、LNG開発会議を行うなど積極的な企業活動を行ってきています。

この開発により、PNGは世界で16番目のLNG生産国として年間630万トンの液化天然ガスを輸出することになります。新聞報道によると、事業期間30年間における国庫及びLand Ownerの得る総収益は5兆2千億円と言われ、莫大な収益をもたらし、GDP(国民総生産)は1人当り2倍になると公表されています。



マタネ総督(右)、ソマレ首相(左)と共に筆者(中央)

主資源権益者のEXXON MOBILに対し、日本向け輸入買付け交渉、そして、全長700キロメートルを越えるパイプライン敷設、さらにポートモレスビー近郊に建設される液化工場、輸出船積み設備建設をめぐって、日本からの建設資機材輸出、売込み商談、あるいはエンジニアリングに対する技術者はじめ、その他管理者等かつてない人的交流も動きはじめると予測されます。インドネシア、カタール等々のLNG Project経験者の話によりますと、天然ガス開発のプロジェクトが始まると、先ず２万人近い内外からの人々のCamp作りが必要とのことで、2014年の第一船輸出を目指して大きく動き出すことでしょう。そして、ここ数年でポートモレスビー周辺は天然ガスプロジェクトによる建設ラッシュで大きく変っていくものと予想されます。

筆者は、30年余にわたりPNGと公私共に深く係って来た者の一人として、日本ーPNG間に大きな投資事業が行われれば、それを基盤として、色々な子、孫事業が派生し、日本ーPNG間の経済、人材交流も拡大すると夢抱いてきただけに、LNG Projectの発進を大いに期待して居るものです。

ガルフ州農村コミュニティ開発支援

那倉　基夫（当協会会員）

2006年6月から3年間、パプアニューギニアのガルフ州で、NGO＜救世軍社会事業団（社福法人）＞によるボランティア活動に携わっています。この活動には、JICAの「草の根技術協力事業」として委託を受けて実施しております。

★ガルフ州：鉱・林・漁業など資源には恵まれていますが、人々の暮らしはとても大変なところです。陸続きですが首都圏から車で行ける地区は極めてわずかで、電気・通信・交通網、教育・保健医療・農業開発等いずれも全国で最も開発が遅れた州です。私の現場は州都のケレマ町近郊の10ケ村で、内陸に少し入った熱帯の湿地帯の中にあります。村に行くのはカヌーか船外機つきの小さなボートです。村人の主食はサゴヤシの澱粉です。特産物はベテルナッツで、特に首都圏で人気があり、村の大事な収入源となっています。

★人々のニーズ：コミュニティ開発支援を始める前に何度か現地を訪れ、村人が一番困っていることをよく聞きました。特に母親たちからは、きれいな飲み水と保健医療衛生についての強い要望がありました。村にはきれいな飲み水はなく、すべて泥で濁った川の水で暮らしています。トイレがないため川も汚染され、胃腸病、皮膚病などに悩まされています。広大な湿地帯の中、非常に蚊が多く、マラリアは最大の死因です。特に乳幼児には脅威です。出産時に亡くなる赤ちゃんと母親が多く、また5歳以下の乳幼児の死亡率も高いです。特に子どもの健康と命をまもるため、以下の活動をすすめることになりました。①きれいな飲み水：雨水タンク設置、井戸掘り、山からの簡易導水　②衛生改善：保健衛生教育、トイレ建設、蚊帳配布、助産婦ボランティア養成、出産センター建設

★村人中心の活動：プロジェクト終了後も施設や管理体制を自らの力で維持継続できるように、村人全員が話し合いと作業に自発的に参加し、村人中心のプロジェクトとなっています。労賃も一切支払われていません。樋口潔（当協会会員）と私の2名の日本人が、多くの地元の人々といっしょに働いています。日本大使館、JICA、現地政府、パプアニューギニアの救世軍ほか民間団体の方々からのご指導・ご支援に心から感謝いたします。

この事業の詳細は、以下のHPでご覧になれます。

http://www.jica.go.jp/partner/kusanone/photogallery/detail/png_01.html

村のこどもたち

井戸のまわりで

完成した雨水タンクの前で

日本・パプアニューギニア協会
法人会員紹介 第14回
「みなさん、こんにちは。」
「住友林業株式会社です。」

〒100-8270 東京都千代田区丸の内1-8-1
丸の内トラストタワー N館
TEL03-6730-3568
FAX03-6730-3569

住友林業株式会社は、別子銅山(愛媛県)の採掘に必要な材木を供給するとともに、荒れた山に植林して森林を守ることから事業は始まりました。1956年には木材貿易のために海外進出し、75年に木造住宅事業に参入しました。海外事業では、住宅の建築・販売の拡大、海外での植林面積の拡大、海外向け木材建材の製造・流通を中心にアジア、オセアニア、北米を対象に進めております。

2007年4月には、晃和木材株式会社が当社のグループ企業になりました。晃和木材㈱の子会社であるOPEN BAY TIMBER社は、1985年よりPNGで大規模植林事業を開始しております。植林事業は非常に長期の投資を必要とし、また、その間の様々なリスクを伴う事業であります。その点、外資企業である同社がPNGで植林事業を継続している価値は、非常に大きいと思います。また、現地の雇用創出と地域社会の発展に貢献して良好な関係を築いている植林事業は、とても素晴らしいことでもあります。

今年の4月に、同社がPNG政府との間で植林を2万haまで拡大する契約に調印できました。2万haの植林面積は、住友林業(株)が日本に有する植林面積の半分もの面積です。現在植えている樹種はユーカリ系の一種であるカメレレですが、合板や家具用にベトナムや日本で使用されております。インドネシアにある当社グループ会社の合板工場(KUTAI TIMBER INDONESIA社)でも使用されております。

今後は長期的な視点で、とくに適地適材の発想に立ち、カメレレ以外の樹種を探ったり、植林管理のノウハウ蓄積も行っていきます。PNGの山には様々な可能性があって、まさに「宝の山」に変わりつつあります。

当社は、今後とも海外の植林面積を拡大していく予定ですが、PNGのOPEN BAY TIMBER社の役割も当社の中でカメレレのようにドンドンと大きく成長しております。

第6回
PNG独立記念
チャリティー・ゴルフ・トーナメント
パプアニューギニア大使館

2008年9月13日、21センチュリークラブ富岡ゴルフコース(群馬県)にて恒例の「パプアニューギニア独立記念チャリティー・ゴルフ・トーナメント」が開催されました。

当日はお天気にも恵まれ、総勢140名の方々にご参加いただき、熱戦が繰り広げられました。

本年度の優勝者は、竹内章三様に輝き、PNG独立記念杯と副賞の極楽鳥金飾りを受賞されました。

また、抽選会では、東京国際大学3年生、清水涼二様が特賞のPNGペア航空券に当選されました。

参加者の記念撮影と
優勝した 竹内章三様

事務局からのお知らせ

「イレーネ賀集写真展」が開催されます!

"シンプル・ライフ・イン・パプアニューギニア"をテーマにして、下記のように写真展が開催されます。皆様、ぜひお出かけください。

日 時:2009年2月3日ー12日
場所:コニカミノルタプラザギャラリーB
(新宿高野ビル4階)

「海外文化セミナーPNG」が開催されます!

東京都杉並区交流協会が主催、当協会が協賛する「海外文化セミナー パプアニューギニア」が開催されます。スライドショーやダンスなど楽しい企画がいっぱい。ぜひ、皆様お出かけください。

日 時:2008年11月30日(日)
13:00ー16:00
場所:杉並区立産業商工会館
(TEL:03-3393-1501)

学生会員¥1000!

学生さんが入会しやすいように、学生会員会費¥1000を設定しました。皆様、お声がけよろしくお願いします。

編集後記

当協会PNG人会員の方と、在日PNG人の名簿作りを始めました。今まで、そのような名簿が存在しなかったので、在日PNG人同士も横の繋がりを作りにくかったようです。うまく機能するといいのですが・・・・・ 佐藤 直子

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。
＊会員数 2008年9月末 法人会員／19 個人会員／98

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的として、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法／郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。
年 会 費／個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 PNG人 1,000円
会費受付／郵便振替口座をご利用ください。

口座記号／番号 00140-2-277582
加入者名／日本・パプアニューギニア協会
問合せ先／日本・パプアニューギニア協会 事務局
〒102-0074
東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6階
(ニューギニア航空 日本支社内)
電 話:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556
E-mail:info@air-niugini.co.jp